

**野呂川・中畑川における平成30年7月豪雨からの取組と
今後の河川改修に関する説明会 議事概要**

日 時：令和2年11月14日(水) 15:00～16:30 (第1回)
18:00～19:30 (第2回)

場 所：安浦まちづくりセンター きらめきホール

出席者：約80名 (以下○：出席者からの発言)

事務局：西部建設事務所呉支所長 他 (以下●：事務局発言)

説明1) 平成30年7月豪雨以降の取組について【資料-2】

事務局からの説明後の主な質疑等

【野呂川ダムに関すること】

- 野呂川ダムの水位をもっと下げることができませんか。更に水を出して空にしたらどうでしょうか。
- 平成30年7月豪雨後、約6m水位を下げた運用しています。現在、施設上、下流に放流できる限界の水位、最低の水位であり、これ以上水位を下げることはできません。
- (上記に関連して)ダムを改良する、または、消防団のポンプでも活用すれば下げられるのではないのでしょうか。
- 現在の容量は、従前と比べて、洪水を貯留する量として約1.5倍まで増加させています。可能な限り対応しているをご理解ください。
- (上記に関連して)予測した雨により、流量を算出し、空としたらどうでしょうか。
- 再度になりますが、現在の容量は、洪水を貯留する目的以外の容量を放流し、従前と比べて約1.5倍まで空の容量を増加しています。運用についても、現行ダムで実施できる限界です。
- 野呂川ダムの配備人員について、4名体制になるのは、いつのタイミングでしょうか。
- 大雨・洪水警報が発表となった時から4名体制としています。

【災害復旧工事に関すること】

- 野呂川水系の光木川の工事はどのようになっていますか。河川の周辺に住んでおり、侵食している状況ですので早急をお願いします。
- 発注済ですが、順々に実施している状況ですので、お待ちください。改めて職員から現地確認の連絡をさせていただきます。

【中畑川の補強工事に関すること】

- 中畑川の補強工事は、5mの矢板を実施することになった場合、地下水利用ができないことになりませんか。井戸水についても問題ないか教えてください。地下水位に問題がないようにしてください。
- 先日ボーリング調査を実施し、堤防下の地盤がどうなっているか、矢板が打設できるのか、地下水位はどの位置にあるかなどを確認しました。結果、堤防の下には砂やレキの層がかなり深くまであり、地下水位は河床と概ね同じ高さでした。このため5mの矢板を打設しても、地下水位はほとんど変わらないと考えています。井戸の調査をした結果、現場周辺には2箇所ありましたが、いずれもの井戸も使用していない状況でした。

- 中畑川の補強工事は、復旧した石積箇所についてはコンクリートブロックになっているが、他の石積護岸についても改修するのか。石積護岸は、目地より草木が生えているので、それだけ空隙があると思います。
- 石積を補強する工法は多々ありますが、それらの良い点悪い点を比較し、現在の川の断面を狭くせず、堤防の強度が増す矢板工法を採用しました。
- (上記に関連して)石積部分を壊してコンクリートブロックに改修をすればいいのではないのでしょうか。雨の少ない冬季にすればいいのではないのでしょうか。
- 冬季には雨が少ないとはいえ、絶対に大雨が降らないという保証はありません。基礎部分まで一旦取り壊して作り変えることになりませんが、石積を取り壊した時に、降雨が来た場合は、浸水被害が発生するのでできません。

- 堤防の住宅地側の法面についてなぜ全てコンクリートで補強しないのでしょうか。下の方だけ施工しています。またコンクリートシートで施工しているが、大丈夫なのでしょうか。
- 越水によって堤防が壊れる際には、最初に堤防の下側からえぐられていくので、その下側を補強しています。またコンクリートシートは、昨年度に応急的・短期的な対応として整備したものであり、それで大丈夫というものではないので、このたび補強工事をするものです。

【その他】

- 維持管理としての河川の掘削は、どのぐらいを目安に実施するのでしょうか。時期等を教えてください。ただければと思います。
- 何年に一回といった明確なものはありません。年一回出水期前に職員が点検しており、状況は把握しています。

説明 2) 二級河川野呂川水系河川整備計画 (素案) について【資料-3】

事務局からの説明後の主な質疑等

【野呂川に関すること】

- 河道掘削は、約 0.4m となっているが 2.0m 程度深くするなどし、上流から下流まで流れるようにしてほしいです。また、維持管理が可能となるよう、階段等の環境も考慮した施設を設置してほしいです。
- 今後詳細な設計を行っていく上で、頂いたご意見は参考にさせていただきます。

【中畑川に関すること】

- 中畑川は、JR 地点が最も狭くなっているため、流木等による阻害により被害が発生していると考えています。河川を改修する際は、JR 橋梁も改修するのでしょうか。
- JR 地点については狭窄部であるため、関係者と協議しながら解消するよう進めて参ります。
- 中畑川の右岸(西側の護岸)についても護岸の改修について考えていただきたいです。また中畑川の右岸の水路(市管理)からの浸水も多く発生しているので、対策を考えていただきたいです。
- 右岸側については言われているとおり、水路からの浸水があると認識しています。関係機関の呉市とも協議をして参ります。
- 河川拡幅について、橋梁は全部改修するのでしょうか。また右岸の護岸の下はすいている状態です。どうか調査してほしいと思います。
- 橋梁については、全て改修することとなります。また左岸の拡幅が注目されていますが、右岸についても調査を行い、改修していきたいと考えています。
- 計画は、河川から溢れないように整備するのが前提と思います。その計画の基となる計画の時間雨量と計画高水流量、計画高水位を教えてください。また、現在の河床からの高さはどのくらいですか。
- 河川整備計画は平成 30 年 7 月豪雨を対象としております。時間雨量は 63 mm/hr、計画高水流量は 140m³/s としています。計画高水位は、今後の詳細設計についても確認して参りますが、現時点では、計画河床から 2.9m、また現状の河床からは 2.1m の高さです。

【その他（野呂川・中畑川共通）】

- 野呂川と中畑川と中切川の合流点のポンプ場付近では、大潮と洪水が重なった場合に道路浸水が発生しそうです。0.4mの余裕しかありません。その箇所の護岸の高さを高くできないでしょうか。
- 今後詳細な設計を行っていく上で、現地の状況を確認しながら検討を行って参ります。

- 流木対策とありますが、川沿いなど、山の立木をあらかじめ切っておくというのはいかがでしょうか。
- 土木部局だけではなく、関係機関との連携が必要となりますので、今後の検討材料とさせていただきたいと思います。

- 野呂川ダム完成後、浸水被害は軽減したと示されていますが、現在、川手神社より上流と下流では川幅も変化しています。5年毎等、計画的に河道掘削等の維持管理をしてほしいです。
- 5年毎等と申し上げることはできませんが、毎年、職員等で点検を行っており、堆積土や樹木の繁茂状況等を確認して維持管理していきます。

説明3) 今後のスケジュールについて【資料-4】

事務局からの説明後の主な質疑等

- 3年後に浸水面積は4割軽減という記載となっているが、納得できないと思っています。
- 我々も、4割で満足してくださいとは考えていません。3年間でこの効果が発現すると考えてください。また河川整備計画での中畑川河川改修は、用地買収等も必要で、今後30年程度の計画対象期間と考えています。浸水被害の要因となった流木対策についても、出来るだけ早く着手し、早期治水安全度の向上に努めたいと考えています。

- 中畑川の浸水被害は、3年後についても解消しないと説明がありましたが、改修の方法がわからないのであれば、有識者についても現場を確認いただいて判断するべきではないでしょうか。また甚大な被害が発生する箇所など、どこが危ないかを認識しているのでしょうか。優先順位をつけることができないのでしょうか。
- 平成30年7月豪雨に対して、河川整備計画の目標を家屋浸水被害の防止をとし、有識者のご意見を伺っています。また優先順位については、全整備内容を踏まえ、早期に被害を軽減できるよう提示させていただきました。